



社会福祉法人のぞみの会
大塚保育園
園長 高尾 順子
平成31年2月1日発行 No.437

冬晴れの日が続き空気が乾燥しています。日本中インフルエンザが猛威をふるい、園でも数人の園児が発症しています。新しい新薬も耐久性の問題が厚労省から報告がありました。保護者としては処方してもらおう薬に悩むところ。同時に伝染性紅斑（リンゴ病）も昨年の12月から報告があります。日頃より生活のリズムを整え、栄養・睡眠・笑顔・対話で免疫力をアップしておきましょう。もちろん手洗い、こまめな水分補給も大切にしましょう。

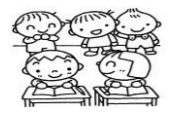
2月には節分（豆まき）があります。消費者庁は「3歳頃までは、食べさせないで」注意を促しています。乳幼児は、咀嚼力・気管支に入った場合でも咳をして吐き出す力が弱いからです。特に乾燥している豆は注意が必要です。窒息を防ぐという意味では、餅や白玉も園では提供していません。日本の伝統行事をお子さんに伝えていけるように体験の工夫が求められます。

さて、1歳児クラスでの出来事です。担任の膝に乗ってとお子さんと絵本を読んだ所に、別のお子さんが絵本を持ってきました。「この絵本が終わったらね」そこで私は「一緒に見ましょう」と提案して見ましたら、身体を背けられて断られしまいました。そのお子さんはブロックの遊びに…“これはすごい”自分で気持ちを切り替えたと思った当時に気持ちはしょんぼり…するとそのお子さんは私の所にきてブロックで組み合わせた物を差し出してくれました。優しさに感動すると同時にお子さんに気を遣わせてしまった。お子さんの感じるかって凄い。こんなこともありました。登園時、恥ずかしくて挨拶ができない3歳児お子さんがいました。何回かあってお父さんが恐縮していました。ある日そのお子さんに「恥ずかしいから挨拶できないんだよね。でもね先生は挨拶してもらえないと寂しい気持ちになるのよ」正直に自分の気持ちを伝えてみました。すると帰りは「さようなら」と自分からご挨拶。嬉しい気持ちを伝えたら恥ずかしそうに笑ってました。人の情動は誰かに命令されてするものではないのです。「楽しみなさい」と言われて楽しめますか？「好きになりなさい」と言われてそうなりますか？自分の事は自分で決めるのです。人の心のくみとり、これからも心と心を通わせていきたいと思いました。これが大人になっても悩ませるコミュニケーションの始まり、大切にしたいと思います。

今日は懇談会があります。ぜひ時間を作って参加していただきたいと思います。 園長

行事予定

- 1日(金) 節分豆まき
- 5日(火) つきぐみ懇談会
- 6日(水) ほしぐみ懇談会
- 7日(木) リトミック
ゆめぐみ懇談会
- 8日(金) pm小学校見学(年長児)
- 12日(火) 体操指導(4.5才児)
ひかりぐみ懇談会
- 13日(水) 観劇会〔父母会主催〕
そらぐみ懇談会
- 14日(木) リトミック・乳児健診
にじぐみ懇談会
- 15日(金) 誕生会
- 20日(水) 避難訓練
- 21日(木) リトミック参観[5才児]
- 23日(土) 入園説明会



観劇会〔父母会主催〕

劇団風の子が今年もやってきます。
今年の演目は
～いまからいえでいってきます～です。
楽しい時間になりそうです！

今年度も父母会のご好意で
キッズクラブ(地域子育て支援)に参加している
お子さんも観覧できるようにしていただきました。

※詳しくは父母会からのお手紙をご覧ください。

クラス懇談会

今年度最後の懇談会があります。
園のしおりの変更箇所の説明や
移行にむけての準備など、
お話していきたいと思えます。

詳細は配布のおたよりをご覧ください。
**尚、駐車場の利用は出来ません。
ご了承下さい。**

リトミック参観(5才児)

きいろ帽子さんの
3年間の成長の様子を
是非ご覧下さい。

2月の歌(幼児クラス)

- ♪コンコンクジャンのうた
- ♪ゆきのペンキやさん
- ♪ひなまつり
- ♪卒園式のうた
- ・思い出のアルバム
- ・みんなに会えてよかったな
- ・ありがとうこころをこめて

《実習生を受け入れてます》

2/4(月)～2/18(月)
白梅短期大学1年生・1名

2/25(月)～3/8(金)
東京保育医療秘書
専門学校1年生・1名

先月号続き・・・
《知っておきたい「敏感期」》



◎『敏感期とは？』
「敏感期」とは、もともとは生物学の言葉です。生物の発育途中には、ある刺激に対して感受性が特に敏感になる時期があり、それを敏感期と呼びます。敏感期にある生物は、その感受性をもって外界のことを盛んに学び、環境に自らを適応させていきます。敏感期が終わると、感受性は下がっていきます。モンテッソーリはこどもたちを観察して、人間の子どもにも敏感期があることに気づきました。運動、感覚、数、言語…、子どもが学ぶべき事柄には、それぞれ学ぶのに適した時期があることを見出したのです。人間の幼児期にはこうした成長のための特別な時期があるということは、現在では発達心理学や教育学の専門家の間でも一般的な認識となっっています。発達心理学の分野では「子どもには年齢に応じた発達課題がある」というような表現で語られることもあります。

◎『敏感期の子どもは、自ら学ぶ』
敏感期の子どもに適した環境を用意すると子どもはその豊かな感受性で、環境と盛んに関わり、自分の能力を開花させていきます。生物としての「環境に適応して生きたい」というエネルギーにかきたてられて、そうせずにはいられないのです。たとえば、指先の運動の敏感期にある子どもは、身の回りにあるものをなんでも引っ張り出したり、ものをつまんで穴に落としたりする活動に熱中します。そうやって目と手の協応性を身につけ、指先を思い通りに動かす能力を習得していきます。敏感期が終わると、それまでの熱心さは薄れていきます。敏感期が終わってから同じ習得しようと思ったら、意思の力で「努力」しなくてはならず、敏感期に習得するのに比べて効率は下がります。敏感期にある小さな子どもの中には、大人もかなわない「学ぶ力」が備わっています。敏感期について知ると、それに合った環境を用意し、子どもを妨げないようにすることが、いかに大切かがわかります。敏感期は子どもの中に生物として備わっている「今これを学びたい」「学ばずにはいられない」という意味が発現する時期。この敏感期に本人が学びたいというのを思う存分学ばせることで、子どもは自発的に学ぶ喜びを知っています。敏感期という見方を知ると、子どもの姿が180度違って見えてきます。「この子は私を困らせていることばかりしている」と見るのではなく、「成長のために今しなくてはならない、大切な活動をしている」と捉えることができるようになるのです。子どもを観察して「なるほど、今はこの敏感期だから、こういう活動をたくさん必要なのね」と理解し、活動に没頭できるように、子どもをサポートするでしょう。子どもに大人の言うことを聞いてもらい、大人の思い通りにすることが、良い子育てではありません。子どもが育つための一番いい方法は、大人が知っているのではなく、子ども自身の中にあります。大人の役割は、子ども自身がやろうとすることに寄り添い、見守り、助けること。このように立場を逆転させて子どもと向き合うことが、モンテッソーリの原点です。

参考文献『自分で考えて生きる力が育つ12歳までのモンテッソーリ子育て』 野村 緑 著作

《おゆうぎかい参観ありがとうございました♥》

貴重なご意見をいただきました。
・撮影場所を事前にプリントで知らせて欲しい。
(座って頭上より上にならない高さで可など)
⇒事前配布のお手紙に載せさせていただきます。
・床・子ども椅子・パイプ椅子・立ち見で見やすかった。
・優先券・家族券があって良かった。反対に昨年同様の意見も、チケットの工夫・・・配布時間の工夫など
⇒今後検討させていただきます。

※お子さんの成長に喜びを感じている感想や、職員にたくさん感謝の気持ち、全体的にスムーズに行われて良かったとのご意見をいただきました。ありがとうございました。

“参観を終えて”

つきぐみの保護者の方々より、『家で「やりたい」という事も園でやっているからなんだと感じました(お手伝いしたいこと)』『真剣にお仕事に取り組んでいたのが驚きました』

また、幼児の保護者の方々より、『園と家庭とのギャップがある。園ではきちんと出来ていて安心しました。』『家庭では食べない根菜を食べていた。』『テーブルを拭いたりお友達のためにお仕事をしていた。』と言う意見を多くいただきました。

《豆まきについて》

消費者庁より、3歳以下に
豆は食べさせないで下さいと言われてます。
0、1才児は行わず、
つきぐみさんは豆まきのみ行い、
幼児のみ昨年通り豆まきを行います。

☆乳児クラスの様子 ~ほし組編~

うぬま先生が去年の夏ごろから、ほしくみさん来て下さり、お仕事を一緒に行っています。
今は主に、水を使った活動「手を洗う」「スポンジを絞る」「洗濯」をしている、ほしくみさんのお友だちです。

みんなバサミ
できるかしら？

みて～？
あわあわ～♡

<幼児クラスさんへ>

おねがい

☆送迎時、階段の鍵は安全の為、必ずお掛け下さる様、お願い申し上げます。

☆先日、年長児保護者様に配布いたしました『卒園文集のお願い』の手紙の中で、子ども達は“お友達顔”とありましたが、今年は“自分の顔”を描くことになりました。